

すてっぷ 11月号

発行/大野城まどかぴあ 男女平等推進センター

編集/男女平等推進センター情報サポーター

女性に対する暴力をなくす運動 11月12日(月)～25日(日)

「女性に対する暴力撤廃国際日」の11月25日までの2週間は、毎年「女性に対する暴力をなくす運動」の実施期間です。女性への配偶者等(夫婦・親子・友人・知人...)からの暴力、性犯罪、売買春、セクシャル・ハラスメント、ストーカー行為や人身取引等、女性に対する暴力は、女性の人権を侵害するものであり、決して許される行為ではありません。

性別や年齢などに関係なくひとりひとりが個性を活かし前向きに生きることのできる幸せな社会すなわち、男女共同参画社会の実現のために、大野城まどかぴあ 男女平等推進センターでは、無料相談を実施し、啓発周知のための講座を行っています。2階展示コーナーで期間中はパネル展もあり、各種相談機関も紹介していますので、ぜひご覧ください。

「一人で悩まないで。」

早めの相談が問題解決への第1歩です。」

あの...わたし...

女性の約10人に1人が「配偶者からの暴力」に悩み、苦しんでいます。

どんな暴力でも、我慢しないで、話してみてください。

DV 0570-0-55210

●お近くの相談窓口をご案内いたします。



女性に対する暴力根絶のシンボルマーク



パープルリボンは女性に対する暴力をなくす運動のシンボルマーク

発信する人になりませんか? ★情報サポーター養成講座★

男女平等推進センターが毎月1回発行する情報誌「すてっぷ」を作成する情報サポーターの養成講座を開催します。

- ・講座やイベントに参加することが好き
- ・新聞などのお出かけ情報は必ずチェック
- ・好奇心がある
- ・ボランティア活動に興味あり

そんな「あなた」をまっています!



回	日にち・会場	内容
1	11月27日(火) 会議室2(3階)	「読まれる情報誌つくりのために ～情報サポーターは、すてきなボランティア～」
2	12月4日(火)	ワークショップ「自分発信を楽しもう!
3	12月11日(火) 大会議(3階)	～参加したいと思わせるチラシづくり～」

<講師>長野士郎(福智町役場まちづくり総合政策課係長)

<時間>13:30～15:30 <定員>30名

<受講料>無料

<申込方法>電話・FAX・総合案内・HPで受け付けます



★講座、イベント等のお申し込み・お問い合わせは⇒男女平等推進センターへ

〒816-0934 大野城市曙町2丁目3番1号

TEL (092) 586-4030

FAX (092) 586-4031

開館日時/月曜日～金曜日 9時～19時

第2・4土曜日 9時～17時

閉館日/第1・3水曜日、第1・3・5土曜日

日曜日・祝日、年末年始



左のマークのある講座・公演は託児が利用できます。開催日の1週間前までにお申し込みください

・1人1回600円

・満1歳～小学校就学前まで

ホームページ <http://www.madokapia.or.jp/>

あなたとわたしのための元気塾 (第4回)

「心がかぜをひくとき」-“安心感”と“自立”-

日にち:9月1日(土)

講師:吉村 春生

(西九州非常勤講師・臨床心理士)



教育現場どがんかせんばあ〜

抱腹絶倒! 佐賀弁はなんて可笑しくて暖かいのでしょうか。久しぶりに涙を流して笑いました。が、その涙には子を想う親への共感が混じっていました。「佐賀のきみまる」「ブロッコリー先生」の異名を持つ吉村氏は、年間150本もの講演に奔走中です。子育ては奥が深く、万人に共有の心理に触れるから可笑しくて哀しい。講演依頼殺到、さもありなむ。近々では、大野城市の家庭教育学級講演会で再びお越しいただきました(10/19 多目的ホールにて)。市内で聞いたことのない人がいなくなるまで回を重ねて欲しい話でした。

えーと、
パパイヤ、ブナ、
ブロッコリー、
チリチリと呼ばれて
います。



児童の自殺の理不尽さや、学園ドラマ・小説の発する「なんか、学校はおかしいぞ」を感じていながら、社会全体でなんらの手も打たなかったここ何年かに忸怩(じくじ)たる思いの大人は多いはず。この度の大津いじめ事件で深層問題が顕在化し、マスコミも行政も巻き込んでの洗い直しが始まっています。不幸にも子どもが犠牲になるなどの理由で、運動を続けてきた親たちにはやっとの思いでしょう。

身振り、手振り、家人ネタあり。患つく間もない深いジャットコスタートウ!

う。吉村氏は17年間の小学校教師を経て退職。「わかっちゃいるのに適切な行動の取れない子」の解明のために大学院で勉強し、臨床心理士・スクールカウンセラーとして社会と向き合っています。

「褒められて育つ」タイプと自称する吉村氏に、

絶賛の声かけを惜しまなかった最前列の受講生が開口一番「人生を教えてもらいに来ました」と。心のメカニズムを分かりやすく解説され、誰もが自らの人生にオーバーラップしたことでしょ。人間は抱えきれない負の感情(不安・悲しみ・怒り・つらさ)を無意識に閉じ込めて生きています。無意識の領域がいっぱいになると行動・思考が固まり始めて、やがて不適応な行動を抑えきれずに問題へと発展します。負の感情の処理として、「言葉にならない言葉は涙になる」に顕れるように泣くことも発散の一つ。また、イメージの世界で遊ぶことで転化される場合もあります。では、処理できなくてガス欠になるとしたら……心のエネルギーは安心感だと力説されます。その安心感を育むには、「聴き上手は育て上手」に尽きます。甘えさせて、生きる勇気を与えます。過保護即ち、生きる力を奪う「甘やかす」とは根本的に違うことにも丁寧な説明がありました。ストレスを抱えて、不安→不機嫌→無気力→身体症状の見られる子には笑顔で接してください。迎える側もまた甘えられる状態がないと、逆に子の方が守ろうとして本末転倒となります。社会に安心が充満すれば、困難は切り拓いて行けます。そんな骨子に、笑いながらも深く納得しました。



泣いたり、笑ったり、頷いたり、板書の写しにも大わらわ。

カウンセリングに訪れるお母さんは決まって「子育てに失敗しました」「母親失格です」と肩を落とすそうです。なんという切なさ、絶句です。吉村氏は彼女達に、「子ども達は母親を選んで生まれてきました」「あなたの代わりはいない」と応えているとか。小泉元首相の所信表明で知られる「米百俵」の精神(食えないからこそ教育が必要だ、国や町が栄えるのもすべて人にある)を今一度思い起こせば、教育現場の再構築が急がれます。社会を満たす「安心感」こそ、その第一歩です。

(情報サポーター 山口郁子)

平成24年度大野城まどかぴあ
男女平等推進センター市民グループ活動支援事業
女性や子どもに対する暴力問題DVを考える

「パパと怒り鬼

—話してごらん、だれかに—

日にち：10月13日（土）

主催：男女平等社会を実現する「チームF」

パパはなぐります。 ぼくのせいでしょうか？

照明を落とした室内、スクリーンに映し出される絵本。物語を読み進めるとともに、おびえて息もできなくなった幼い男の子と夫の顔色をいつも見て気を使う母親が現れます。そして、赤鬼のようになって暴力をふるう父親の姿も。この物語はノルウェーの実話を参考に書かれた、※「パパと怒り鬼 —話してごらん、だれかに—」です。



DV（ドメスティック・バイオレンス）、児童虐待という命にかかわる重く大きな問題を、できるだけ受け止めやすい形で、参加者全員で考えていきたいという意図から、このような絵本を使った研修会を企画しました。

参加者をあらかじめ4人のグループに分けて、グループごとに座ってもらいました。4人の読み手はスクリーン横に並んで座りました。読み語りは進み、参加者はスクリーンの絵に釘づけです。



主人公の男の子が王様に、自分の父親の暴力について手紙を書き王様が家に来たところで、いったん読み語りを中断。

参加者に王様になったつもりで、自分だったら何をするかを考えてもらいました。男の子に、母親に、父親に、他の登場者に、ひとりひとりが王様だったらできることは何か。



それがグループに与えられたテーマです。グループでは、それぞれが自分の意見を自由に発言し、それを付箋紙に書き、模造紙に貼って発表してもらいました。それから本の続きを聞いてもらい、本の中の王様の行動を知ってもらいました。

さて王様はどうしたでしょう。男の子に「手紙をくれてありがとう。君は悪くないよ。」と言い、父親をお城につれて帰り、怒りを暴力にしないように自分を見つめなおす時間を与えました。この本の大きなテーマは、ここにあると思います。**被害者が逃げ隠れするのではなく、加害者が更生し暴力を振るわないようにすること。**

今、日本では加害者に対する更生プログラムやシステムがほとんどない状態です。できるだけ早く取り組んでいかなければ、ますます悲しい事件が増えていくことでしょう。最後にこの研修に参加しての感想や**DV**について思っていること等を1人ずつ発表してもらいました。参加者それぞれが、その立場で、自分の身のまわりに**DV**や虐待の兆しがないか注意深く見守っていき、間違いを恐れず通報しましょうと、締めくくりました。

今回「すてっぷ」に、この研修会を企画開催した側のメンバーとして、情報サポーターの私が記事を書かせていただきました。思い入れが強く読み辛い点もあるとは思いますが、ご容赦ください。

（情報サポーター ちびまま）

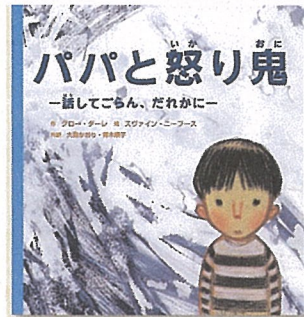
※4面で「パパと怒り鬼—話してごらん、だれかに—」の書誌紹介をしています。ご覧ください。

◆◆◆男女平等推進センター図書コーナー DVに関する書籍紹介◆◆◆

男女平等推進センターの図書コーナーに、今春からDV（ドメスティック・バイオレンス）を子どもの視点からとらえたノルウェーの絵本が加まりました。

ひとりでもたくさんの人に読んでいただきたいのはもちろんですが、心の中で助けを求めている子どもたちやDV被害当事者、そして加害者にも読んでもらいたい1冊です。この本は「DVは周りが早く気づいてあげること」「我慢しないで助けを求めていいこと」「暴力をふるう当事者自身が変える努力をしなければいけないこと」を伝えています。

ぜひ手にとって、このメッセージを受け取ってください。



「話すことで、
外の世界への扉が
開く物語」

パパと怒り鬼
一話してごらん、だれかに一
作/グロー・ダーレ
絵/スヴァイン・ニーフース
出版/ひさかたチャイルド

11月の男女平等推進センター

日	曜	予定
1	木	福祉住環境2級⑪ スキルアップ 簿記2級 ヘルシエクササイズ①
2	金	親子のためのブックタイム①
3	土	センター閉館日
4	日	センター閉館日
5	月	福祉住環境2級⑫
6	火	スキルアップ 簿記2級 カラーコーディネーター3級⑥
7	水	休館日
8	木	大野城市男女共生講座 ヘルシエクササイズ② スキルアップ 簿記2級 福祉住環境2級⑬
9	金	
10	土	スキルアップ 簿記2級
11	日	センター閉館日 創業セミナー①
12	月	福祉住環境2級⑭ 託児所-ター定例会
13	火	スキルアップ 簿記2級 カラーコーディネーター3級⑦ 啓発所-ター定例会
14	水	
15	木	福祉住環境2級⑮ ヘルシエクササイズ③ 情報所-ター編集会議
16	金	親子のためのブックタイム②
17	土	センター閉館日
18	日	センター閉館日
19	月	
20	火	カラーコーディネーター3級⑧ 子育て中のコミュニケーション講座①
21	水	休館日
22	木	ヘルシエクササイズ④
23	金	センター閉館日
24	土	市民グループ 活動支援事業
25	日	センター閉館日 創業セミナー②
26	月	
27	火	情報サポーター養成講座① 子育て中のコミュニケーション講座②
28	水	
29	木	ヘルシエクササイズ⑤
30	金	

※11/10～24（まどかぴあ2階展示コーナー）
DV防止のための展示を行います。ぜひご覧ください。



相談のご予約・お問合せは・・・
☎092-586-4035へ

☆大野城まどかぴあ 相談室のご案内☆

相談は無料です。まずはお電話してください。

■総合相談・・・月曜～金曜 9時～17時

※土・日・祝日と休館日はお休みです。

面接相談（要予約）と電話相談ができます。

■臨床心理士による相談・・・火曜・木曜 月4回

面接、電話相談。予約してください。

生き方、夫婦・親子関係、対人関係、仕事のこ
と、DVの相談など、気持ちの整理をしませんか。

＜今月の相談日程＞

11月8日・15日・29日（木）、20日（火）

■法律相談・・・第1～4木曜日

13時～16時 面接相談のみ。予約してください。
弁護士が相談を受けます。

■おしごと相談・・・11月14日（水）10時～12時

面接相談のみ。予約してください。

福岡県福岡労働者支援事務所の労働相談員、
就業アドバイザーが相談を受けます。

ひとりごと 古事記はワイドショー？

すてっぷ9月号掲載記事「メディアとの賢い付き合い方」の余談です。いまも使われる“みそぎ”や“海幸山幸”が電車の名前になって親しまれている日本最古の歴史書「古事記」。今年には編さん1300年に当たるとか。読者の皆さんは「古事記」と8年後に完成した「日本書紀」は同じ出来事でも扱い方が違うことをご存知ですか？

記紀神話の「古事記」が、古来の大和ことばで物語風に詳しくリアルに書かれているのに対し、「日本書紀」は当時最先端の漢文で、さらりと記録風に書かれている事が多いそうです。同じ天武天皇の命令で作られたのに編集方針の違いでしょうか？

歴史書が勝者の都合のいいように書かれていることは分かっていますが、視点を変えると史実がまったく違う印象になることが面白いですね。来年の大河ドラマは会津出身の新島八重だとか。好評だった新撰組や篤姫、龍馬の視点で描かれた＜幕末から明治維新＞を、敗者の立場で見るとどうなるのか？……楽しみです。

（情報サポーター 森）